

The Futaka Spirit

(現教だより第6号)

4年 図工科

単元名「つくろう夢の建築 広がれ4白夢の町」

指導者 石井 都 先生

ガウディが生きた世界に入り込んだかのような、魂の教室掲示。共感・協同の考え方を基盤とした、愛情いっぱいの学級風土。教材に惚れ込み、生き生きと活動する子どもの姿があちこちで見られました。

【学習活動】

- 1 前時までに学習したことを想起し、本時の問題を確認する。
- 2 材料の加工方法や組み合わせ方を工夫して表し方を考える。
- 3 全体交流により、表し方のよさを話し合う。
- 4 友達の表現から学んだことを付箋に書き、学んだ方法を試しながら表す。
- 5 本時のまとめをする。



単元の課題から連続する本時の問題を共有



時間を忘れ、作品づくりに没頭する子どもたち



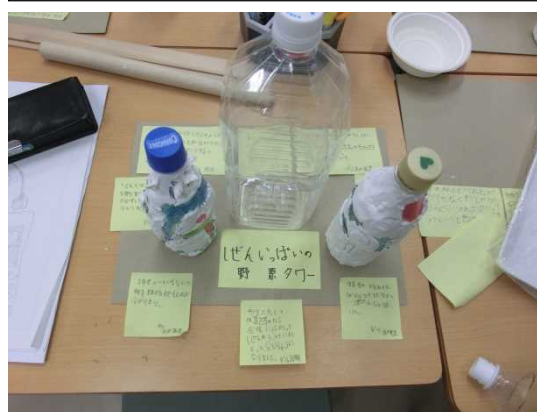
友達の作品から表現のよさを感じ取る



多様な見方・考え方の表出



学んだ方法を意味付け、吟味していく



新たな表現へ… (文責 橘 慎二郎)

【石井先生コメント】

本題材で、自分にとって意味ある知を想定した見方・考え方を育む授業構想により、身の回りの建物や世界の文化遺産、あるいは、ガウディなどの建築家や芸術家について「図工のめがね（対象の見方）」をかけて見つめ、自分にとっての意味を考え、表現に生かすようになりました。また、ガウディの「意味をもって表現にこだわる」生き方に感受した子どもには、表したい物のためにとことんよさを追求する姿が見られたように思います。

～ つくろう夢の建築 広がれ4白夢の町 ～



見方・考え方を育み、自分にとって意味のある知を創造するために
 方策Ⅰ 自分にとって意味のある知を想定し、必要な見方・考え方を明確にした
 授業を構想する。
 方策Ⅱ 見方・考え方を育むために質的転換点を明らかにした指導と評価を
 工夫する。

なども、味え題に子るで意考な確、すとのた明で来こつ新がとくるのはせ義、行れにでせ意うに入実践の行常り自実合想をが取た本み構価びをけ。組元評字方付るを単との仕にれ材し導での身々題し指中想で待の定しの構活期数想定活業生が複を想生授、と、知の業たたるめるも授新えがたのえくるをつくる。味方解し、掟なる。味超なえ事につべ知意えのとけ意をはい物姿を述るて考りのかて能でとらる況にあつたなあし技のたがす状下のとつ分がのと・るきなりる以味に培自要りと解えてしたれて意分にる必く分理捉つかしまいて自できるつく自・てな生成育つるまでな業抱ふデ子の「識けにも横がにとこれにの授エウ子の知分かに再方子におここのか願方し題りるら中をえ骨分に、豊めせにに。る。よけ切明のび考の自科にるがたいやめ目たえ。る。におをが活学・案の作き得方むい合たをつい共の個をもと能動しけをの合的育値る学ぐ表閣やとこをに常と生ら方提け工と、え育思出る々などの目的、あ子よくで働いてるつ立材うす提習目こをが見本お画たて考をいたのす数にる【目】は、でいよ生取にに材、すに確教科間か見い様た科、に図めつ・方したのうけ【目】なこどもてとに材、すに確の教時間か見い様た科、に図めつ・方したのうけ【目】は、でいよ生取にに材、すに確で、の時にんを、行工生をは、【解題】はるな抱め協見したを【子】は見造的題は、表的に確またび態学知けを化先のどに方【解題】はるな抱め協見したを【子】は見造的題は、表的に確れき字状でる受想図井もなめ見向こら豊いを感じ【理定意用実体知に複提粘をる本に材けらと題下つもう学の方材○中べむ○志こじ性願性共○通説有本具のら本に材けらと題下

[illegible]

○△
で、その
必要に
要する
など、こ
見ても
方と同
考を通
えし識
方をい
をもち
明確に
した上
で、問
単元解
課の取
題組と
子ども
もたて
共有す
ながら
進めら
れていた
ことが
つなが
っている
ものの
さしの